

基本メディアの感情表現の拡張に関する MMI を中心に考察

—多層構造に着目して—

○氏名 森田(Morita) 英夫 (Hideo)

Keywords : 気持ち、情報伝達媒体、多層構造、五感、MMI

1 目的

本研究の目的は：最近 online の会議・テレワークの普及が著しいが、現在のそれでは人と人との間での“気持ち伝わるコミュニケーション”が不足するという声も多方面からでている。そこでこれらの声を踏まえての対応策の提案を行う。

2 方法

本研究の調査・分析方法は：参考文献にあげた諸論文や私の既に発表した論文などに関連した調査と分析をして考察する。

3 調査・分析の結果と考察：

従来からMMI (Man Machine Interface) として情報通信の世界で考えられてきた基本メディア:Voice, Data, Txt (言語)、グラフ、動画像といった区分を、多層構造化で見直しを行う。

本論文では第1層から第3層までを考える。第1層としては従来からの基本メディア、これは耳(音声)/口と眼(静止画・動画)にくわえて触覚・音楽を加える。これからの情報通信メディアでは5G/そしてデジタル化、マルチメディア化の一層の発展から情感に訴える五感通信や、音楽の活用がより効果的に使われるようになり、より充実してくると考える。

第2層は人間の五感(眼耳鼻身)の機能に加えての人工デバイスによる人能力の強化をする手段(ロボットを使う場合もあり)を含むものとし、第3層はマルチメディアとし、第1層と第2層にある各種メディアの複合的なメディアである。

このように考えることで、ニュアンス・コミュニケーションや表情を伴う五感通信がらみ、さらには5Gがらみの提案や“おもてなし”機能のレベルアップ提案を行うことができる。母子のスキンシップ(五感通信)による情報交換も、そしてまた音楽も人類に必須の最大に重要なメディアと考えられる。前者は第1層において人間が機能させる五感と脳中枢を介しての母と子の情報交換に代表されるものであり、後者の音楽による共感と気持ちの共有と感情の高揚は全人類的に共通であることは、前者と同様である。

4 結論

情報通信の世界で考えられてきた基本メディア:Voice, Data, Txt (言語)、グラフ、動画像といった区分を見直して、3層構造とすることで、触覚が伴う情報交換や、音楽といったメディア、そしてこれらを含めたマルチメディアで、“気持ち伝わるコミュニケーション”を補える。

5 参考文献

- (1) 平沢純一・中島信也「JEITA 話し方種別が「ライン」感情や意図を表現する音声合成」 電子情報通学会誌 Vol.104. No.1 2021
- (2) 山際寿一「気持ち伝わるコミュニケーション 言葉に限界：五感いかして」 2021.8.6 朝日新聞
- (3) 森田英夫「乳幼児期の情報通信環境についてのオントロジー的考察」 2020.7.4 42nd 情報通学会
- (4) Nobuhiko Shimasaki and Hideo Morita Title: A Scope of Man-Machine Interaction in Business Information System Environment April 25, 1985 @German-Japan Forum on Information Technology Topics of Computer Workshops at West Germany